

21年目を迎えた「8020運動」

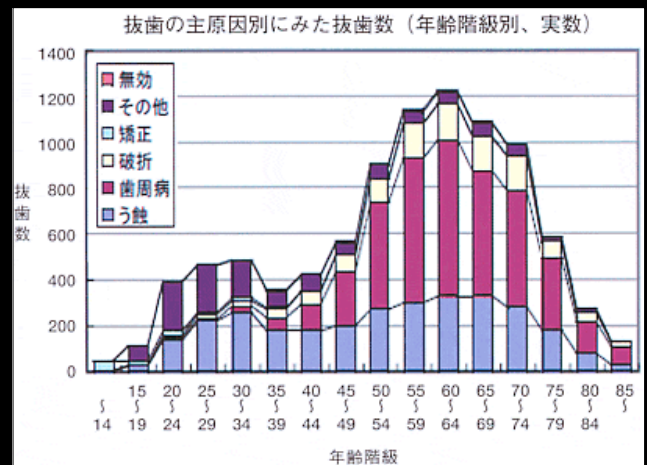
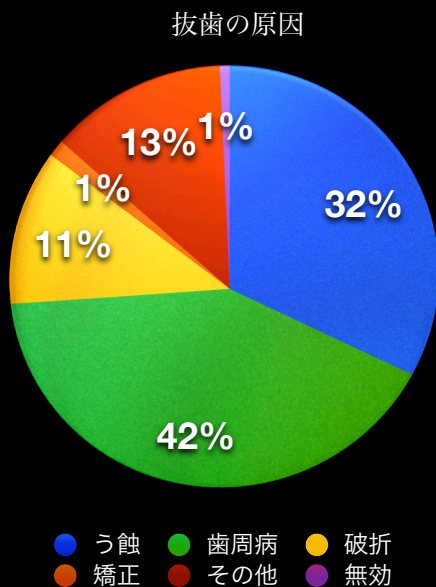
「80歳になっても20本以上自分の歯を保とう」をスローガンに始められた8020運動、今年で21年目を迎えます。お口の健康は会話や表情など、日常生活に大きな影響を及ぼすばかりではなく、全身の健康の維持にも密接な関係があります。このページでは口腔という器官の重要なパーツである「歯」の喪失についてお話したいと思います。

8020達成率の推移

	80歳一人平均現在歯数	8020達成率
昭和62年	4.0本	7.00%
平成5年	5.9本	10.90%
平成11年	8.2本	15.30%
平成17年	9.8本	24.10%
平成19年	—	25.00%

8020達成率は運動開始の昭和62年では僅かに7.0%にすぎませんでしたが、平成19年には25.0%を記録しました。しかし、この運動は達成率の向上を目指すものではなく、妊産婦から乳幼児、青年期から中年、高齢期にいたる全てのライフステージにおける口腔機能や全身の健康の維持・増進を意図した運動です。

歯を失う原因



円グラフは「歯を失う（抜歯）の原因」を病気別に観たもので、う蝕と歯周病が大きな原因となっています。（このう蝕と歯周病を歯科の二大疾患といいます）棒グラフは原因と年代の関係を観たものです。青色で示す「う蝕が原因」で抜歯される割合は各年代でほぼ一定していますが、朱色で示す「歯周病が原因」は年齢とともに増加し、40代後半から急激にその割合を増します。

その理由は、歯周病はう蝕と違い痛みが少なく気づいたときには症状がかなり進んでいることが多い。この年代は仕事が忙しくなかなか歯医者さんに行く時間がとれない。また、十代のころに比べ歯科健診を受ける機会が少ない。など様々な要因が重なっているためと思われます。

この年代の方は年に2～3回の定期健診を受けることをお勧めします。次回は「8020達成のために」をお話ししたいと思います。（参考：8020推進財団：永久歯の抜歯原因調査報告書、平成17年より）